

登録番号	第088号
名称（型式等）	旭硝子株式会社（現 AGC 株式会社） 船橋工場
所在地	（旧所在地）千葉県船橋市北本町 1-10-1
	AGC 株式会社（本社）東京都千代田区丸の内一丁目 5 番 1 号
設立（竣工）年	昭和 31(1956) 年同地にて生産開始

選定理由

冷蔵庫、洗濯機と並んで“三種の神器”の一つとして位置付けられたテレビは、昭和 28(1953)年 2 月、日本で本格的にテレビ放送が開始されました。その前年、昭和 27(1952)年 3 月、旭硝子株式会社（当時）は米国コーニング社からの技術導入を以てテレビ用ガラスバルブ（ブラウン管前面及び背面部のガラス）事業に進出します。昭和 30(1955)年 3 月旭特殊硝子株式会社深川工場（新設）で生産開始。翌年、昭和 31(1956)年 11 月同社船橋工場（新設）での生産を開始します。昭和 37(1962)年 7 月、旭硝子株式会社船橋工場として新発足。以後、船橋工場は長年、CRT（ブラウン管）ガラスバルブ主力工場として、また、事業海外展開後はマザー工場として活躍します。テレビ用のみではなく、パソコンモニター用も製造し、株式会社日立製作所茂原工場・佐倉工場を初め、国内海外のブラウン管メーカー各社にも納入し、世界のブラウン管事業を支えて来ました。その後、テレビ・モニターは液晶画面が主流となり、生産開始約 47 年後の平成 16(2004)年 10 月、生産停止に至りました。

同工場はこの地域の歴史を語る上で大変重要な工場であり、一時代を担ったブラウン管製造を語る上でも大変貴重な工場でもあります。今回、AGC 株式会社よりブラウン管となるテレビ用ガラスバルブ前面の「パネル」と電子銃を取り付ける背面部「ファンネル」、及びこの 2 つを接着するバルブ接着用粉末ガラス「フリットガラス」について、県内の産業技術の歴史を知る資料として補助資料となる製造時の映像とともに館に寄附され、保管されています。



ありし日の船橋工場（1）



ありし日の船橋工場（2）



パネルガラス（前面）



ファンネルガラス（背面）



フリットガラス

参考資料 1) 「バルブ事業の思ひ出」(旭特殊硝子 柴田三郎 1962 年)

2) 「夢と情熱 TV バルブ国産化の軌跡」(旭硝子総研 1994 年)